



【SDG s ×探求×グローバル】

世界をアクティブに学ぶ教育の新潮流

JICA地球ひろば

2022/04/04

清泉女子大学

地球市民学科

Department of Global Citizenship Studies

准教授 辰巳頼子



2021年度「新カリキュラム」スタートまでの経緯

- 21世紀の始まりと共に（2001年に）設立された地球市民学科。
- 日本のみならず、諸外国の社会・文化・政治・経済・歴史なども理解し、「地球市民（Global Citizen）」として共に生きる姿勢を大切にする人材の育成に注力。
- 「国際（International）」を超えて「地球（Global）的視野」の広がりを持つ研究をし、学際的な学問形成にも貢献。
- 「現場」を大切にし、国内外で積極的に「フィールドワーク」を展開。



フィールドワーク（海外）

地球市民学科の伝統である国内外での「フィールドワーク」科目



フィリピンFW



マラウイ共和国FW



ニュージーランド
FW

その他過去の実績・今後の予定

台湾FW、韓国FW、インドネシアFW

インドFW、カナダFW、バリ島FW

モロッコFW、カンボジアFW

タイFW、ポルトガルFWなど.....



フィールドワーク（国内）

地球市民学科の伝統である国内外での「フィールドワーク」科目



周防大島FW



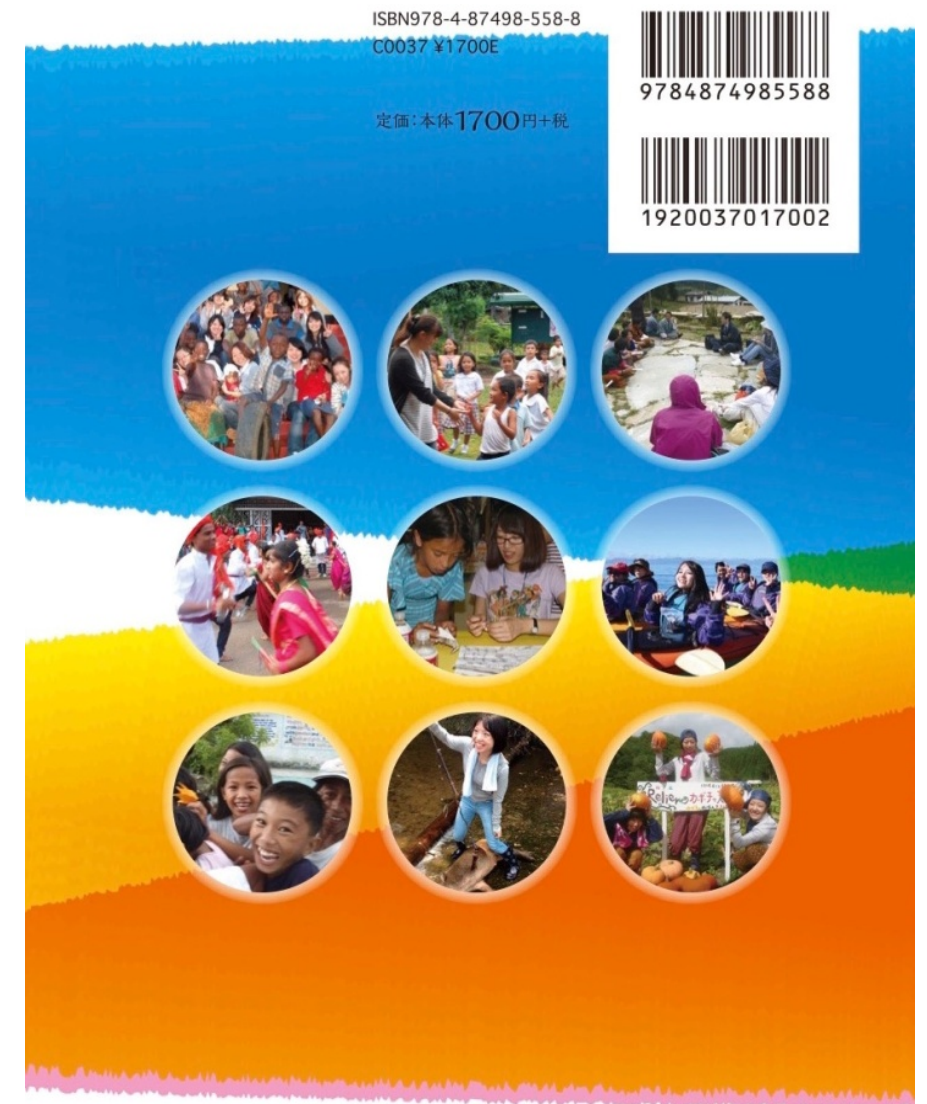
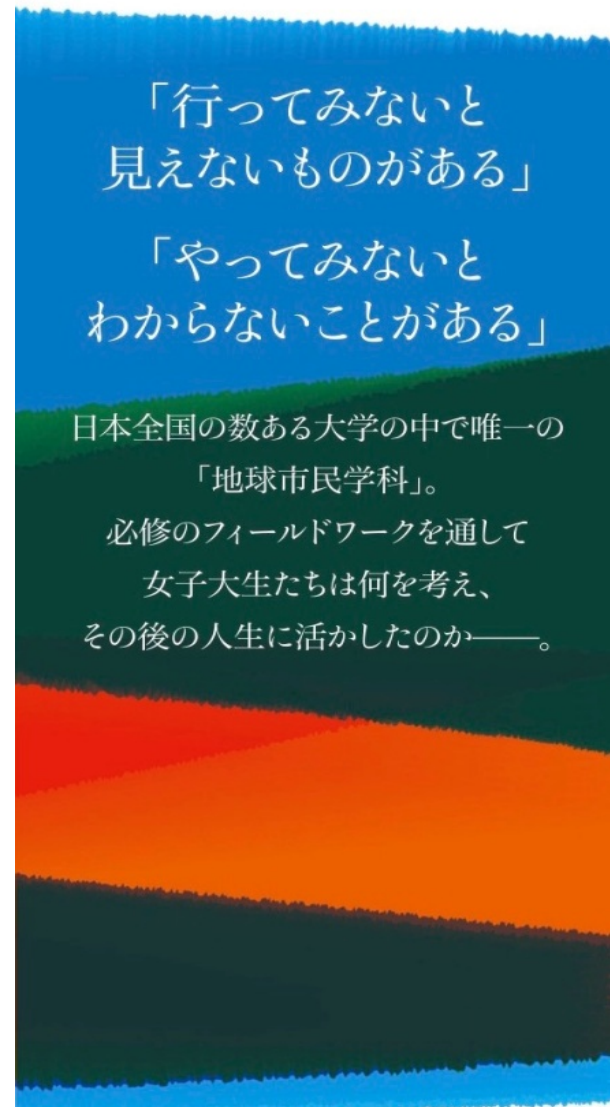
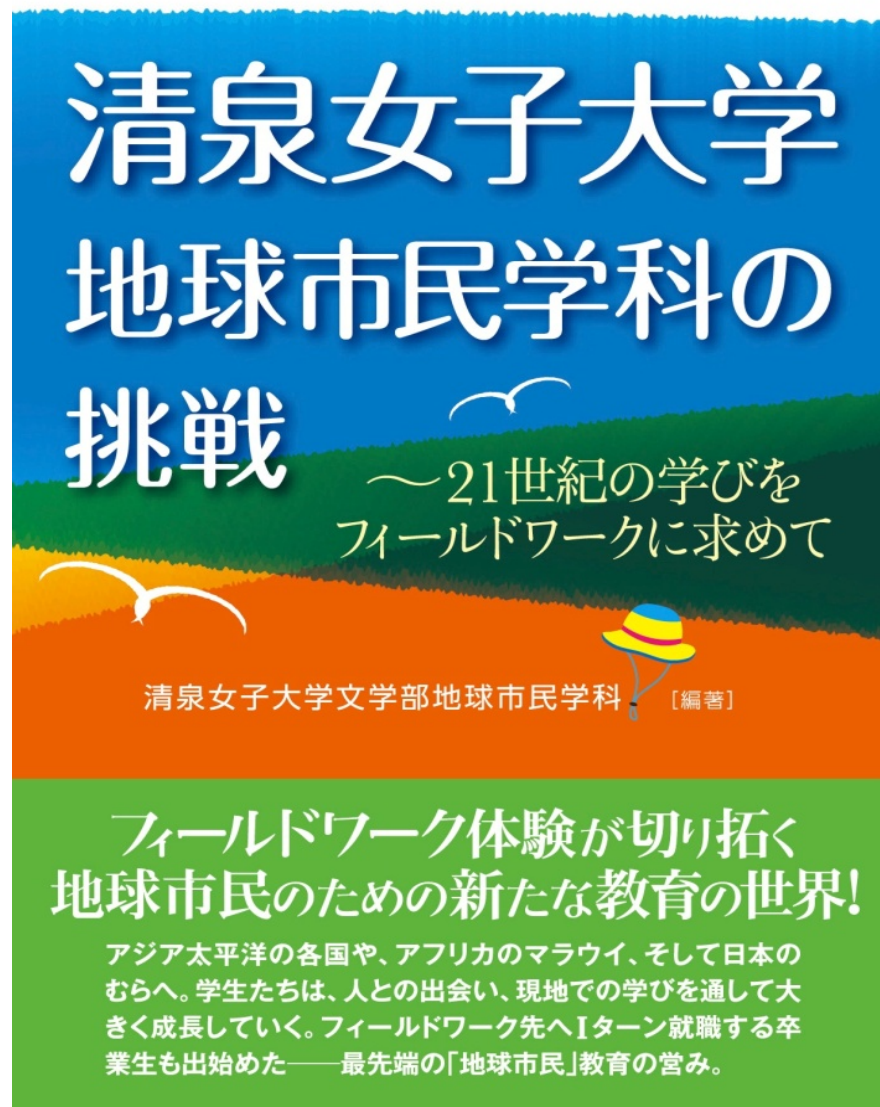
沖縄八重山諸島FW

その他過去の実績・今後の予定

茨城県常陸太田FW、愛知県豊根村FW、岩手県陸前高田FW、
鹿児島県いちき串木野FWなど.....



20年間におよぶ実践……「大学で学び、現場で学び、大学で学ぶ」 現場と「関わりを持つ」ことの重要性



『清泉女子大学地球市民学科の挑戦：21世紀の学びをフィールドワークに求めて』
教育書籍で実績のある出版社「高文研」より、2014年に出版



もう一步先へ、もう一步前へ

- ・ この価値ある学びを、キャリアにどのようにつなげるか、その道すじを示したい
- ・ 大学四年間のための学びではなく、その後のキャリアにつながるライフテーマを見つけてほしい
- ・ 四年後、どうなっていたいか。二十年後、どんな社会に住んでいたいか。そのために自分は何をしていきたいか
ー 「チェンジメーカー」



これまでの20年・これからの20年

- 20年間に行ってきた教育・研究・実践内容を再度検証。1000名近くを輩出してきた、「卒業生」たちへの聞き取り調査の実施。
- 世界中の高等教育（大学教育）に関する先端的な研究と実践事例のレビュー。
- これまでの20年の蓄積および教育ノウハウに、先端的な研究や実践事例の成果を「掛け合わせて」、次の20年間を見据えたカリキュラムを構築。



マラウイFW



台湾FW



アメリカ先住民居留地FW



VUCA World

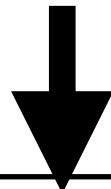
変動が激しく (Volatility)

不確実で (Uncertainty)

複雑でもあり (Complexity)

曖昧な世界 (Ambiguity)

VUCA Worldの本格的到来



地球市民学科の新たな「挑戦」

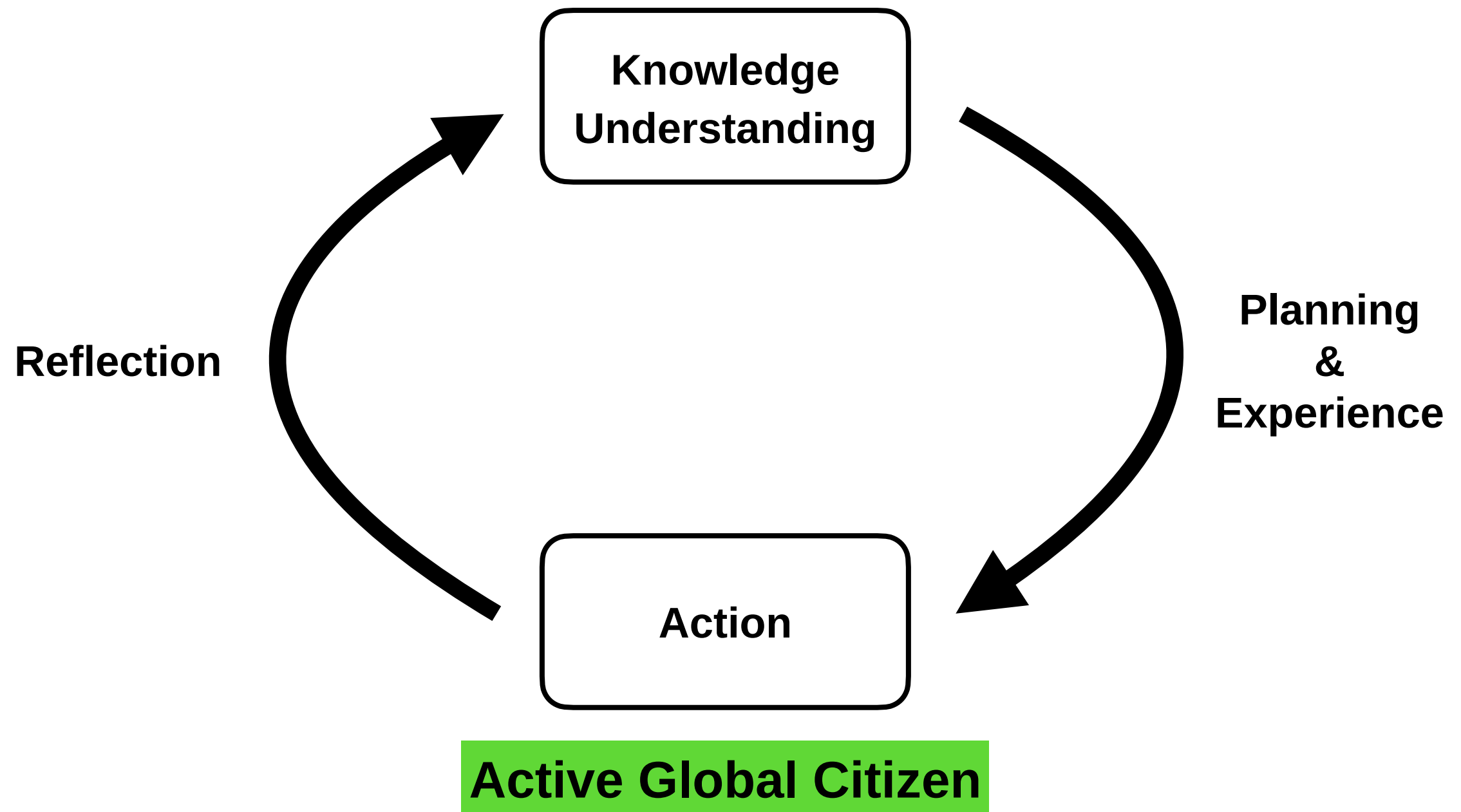
VUCA時代に活躍できる
グローバル・シティズン
=チェンジメーカーを、
大学の教育を通して、
どのように育てるのか？



Source: Reuters
"Empty Streets of New York City" <<https://www.reuters.com/news/picture/empty-streets-of-new-york-city-idUSRTX7INJX>> (accessed on June 22, 2020)

知識を問題解決のための知に転換

Knowledge into Action



地球市民学科 新カリキュラム の完成



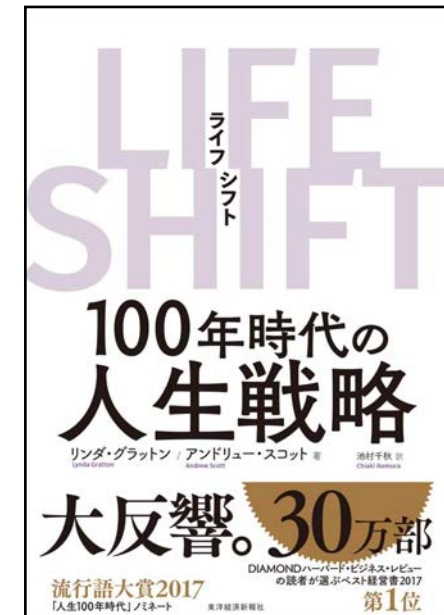
プロジェクト中心型のカリキュラム

キャリア観の再デザイン

「人生100年時代」

= 一生働く時代

= 常に能力を更新し続ける（学び続ける）時代



「就社」はゴールになり得ない

組織の中で、与えられた
仕事をこなしていく



短期間（Short Term）

で、複数の異なるプロ
ジェクトに関わりなが
ら仕事に取り組む

そもそも、人生は、それ自体が「プロジェクト」のようなもの！

Life is a Project !



四年間で、小さなことでも良いので自分で問題を解決する ＝見たい変化に自分になる

1年

2年

3年

4年

個人 プロジェクト

チュートリアル
担当教員の
アドバイスを受けながら
自分の「問題発見」
のためのプロジェクト
を展開する

プロジェクト発表会

グループ プロジェクト

2年次必修科目
4名程度のグループで
チームワークを発揮し
1つのプロジェクト
を展開する

プロジェクト発表会

卒業研究プロジェクト＝個人

自身に取り組むべき問題について
他者と協働して、具体的に解決し、
その過程で適切な情報発信を行う

プロジェクトの過程で、国内外での
インターンシップ、フィールドワーク
をゼミ教員の支援を受け展開

外部審査員等を前に
しての中間発表
プレゼンテーション

卒業
プレゼンテーション



実践（プロジェクト）を支えるのは知恵と心ぐみ



ビジョン (Vision)



大学のモットー

知恵 (Wisdom)

皆のための知識

Knowledge for the Greater Good

心ぐみ (Attitude of Thinking)

未来を慈しむ

Caring for Our Common Future



VUCA時代に自分らしいキャリアを歩んでいくための学び

1. 「人生のWhy」に向き合い続ける

自分がこの人生の中で、自分の個性を活かしながら、どのように社会に価値を与え続けたいか？

【関連授業】 新入生合宿、チュートリアル、SEL、地球市民セミナーなど

2. 「未知の状況」に対処するためのコンセプト（実践的な知）を身につける

異なる文脈・脈絡での「未知の状況」に対応できるモノの見方、思考の枠組み、理解の仕方

【関連授業】 基礎概念1・2（グローバルシティズンのための101のコンセプト）

3. 単なる「情報」や「データ」を「知」や「智」に変換する力を身につける

膨大な情報やデータを、整理・分析しながら、意思決定に役立つ「知」へと変換する

【関連授業】 データサイエンス入門、データサイエンス応用

4. 他者と協働するためのスキル・コミュニケーション力を高める

多様な個性を持つ人々との、協力・協働・共感のための力はこれからの時代の社会的スキル。

【関連授業】 リーダーシップ・組織論、SEL、コーチング論、ユニバーサル・コミュニケーション論

English for Global Citizens、国際協力のための英語、国際協力のための外国語など

5. 生涯学び続けられる自分になる（そのためのコツと能力を身につける）

変化し続ける社会の中で、新たな知識、情報、考え方などを常にアップデートし続ける力

【関連授業】 各種プロジェクト系科目（インプットしたらアウトプットをセットで行う）

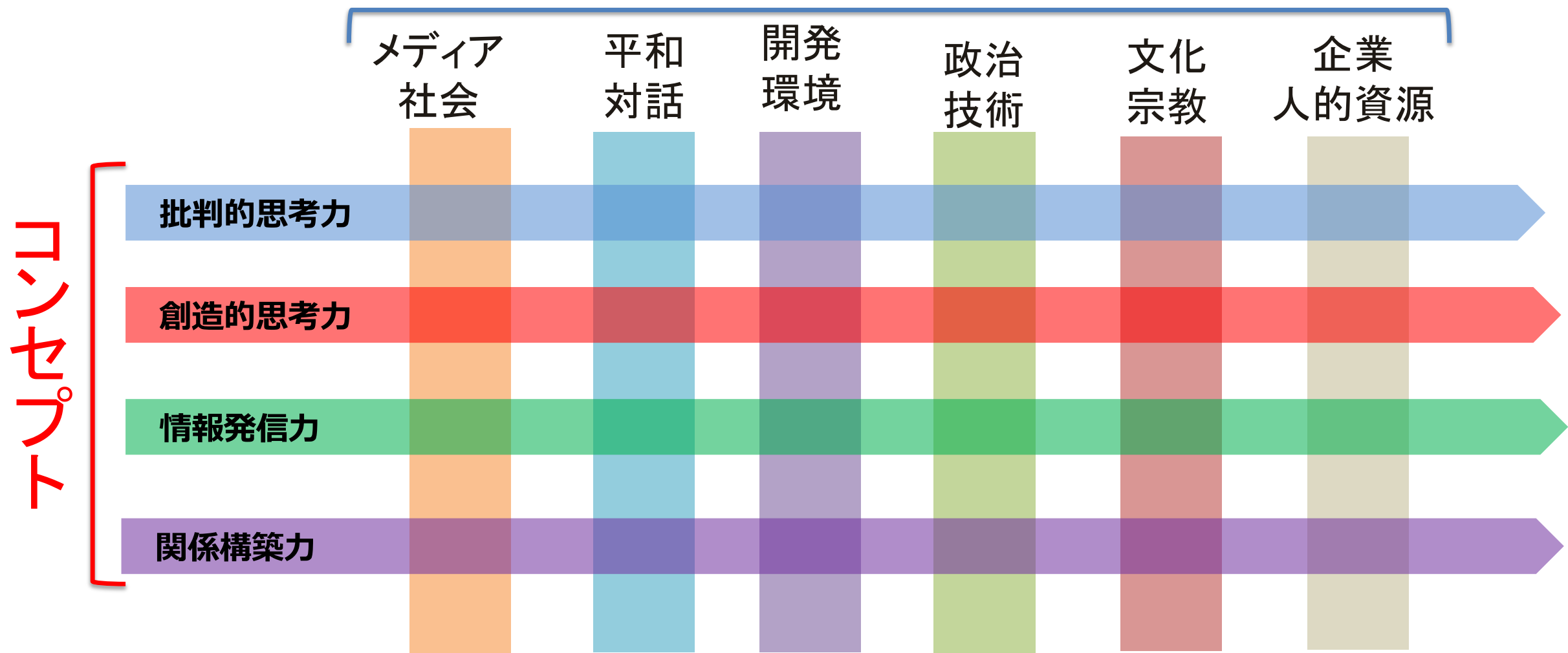


思考と実践の「型」を身につける「基礎概念」 (1年次必修)



地球市民学科 101 のコンセプト＝汎用的 「思考の型」

コンテンツ



「101のコンセプトブック」は入学時に配布



清泉女子大学 地球市民学科 基礎概念 解説書

2021/4/16 ver.1.6
本資料は本学在籍者が研究・学習に使用する目的以外での無断転載を禁ず
© Seisen University All Right Reserved



コンセプトブックでのコンセプト解説例（#脈絡）

批判的思考力-意図を抽出する-脈絡

脈絡（#context）

コンセプトの解説：

脈絡とは、ある発信された情報の背景にあるさまざまな要素を考慮して理解・分析を試みる思考習慣です。

例えばある作品を評価する時、あるいは、ある現象を分析するときには、以下のような点を配慮すべきです。

- ・作品は誰に向けたものか
- ・どのような歴史的なできごとが背景があるか
- ・どのような作品の影響を受けているか
- ・当時の世相や社会的規範に対してどのような影響を与えたか
- ・どのような文化の影響を受けているか

ある作品を分析しようとする時、またはある現象を目にした時、作者や現場にいる人々がどのように現実を捉えているのか、に注目しましょう。脈絡（文脈）には、はっきりとした辞書的な定義はないでしょう。しかしそれを発見することで、現場の人々が生きている世界をよりよく知ることができます。

適用事例：

音楽家として史上初のノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランには『風に吹かれて』や『転がる石のように』といった名作があります。こうした作品は、高い物語性を持つ一方で、ディラン本人がどのような影響を受けて詩を書いたかについて語ってこなかったために、多くの人達が作品が世に出された時代背景や作品が世間に与えたインパクトから、独自の解釈を導き、時に論争を引き起こしました。

練習問題：

次の作品は、どのような目的で、誰に、何を伝えようとして作られたものか、考えてみてください。



(Roger Shimomura, "Classmate #1", 2007)

参考文献：

『エスノグラフィー入門』小田博志 - 7章『概念力をきたえる』 -



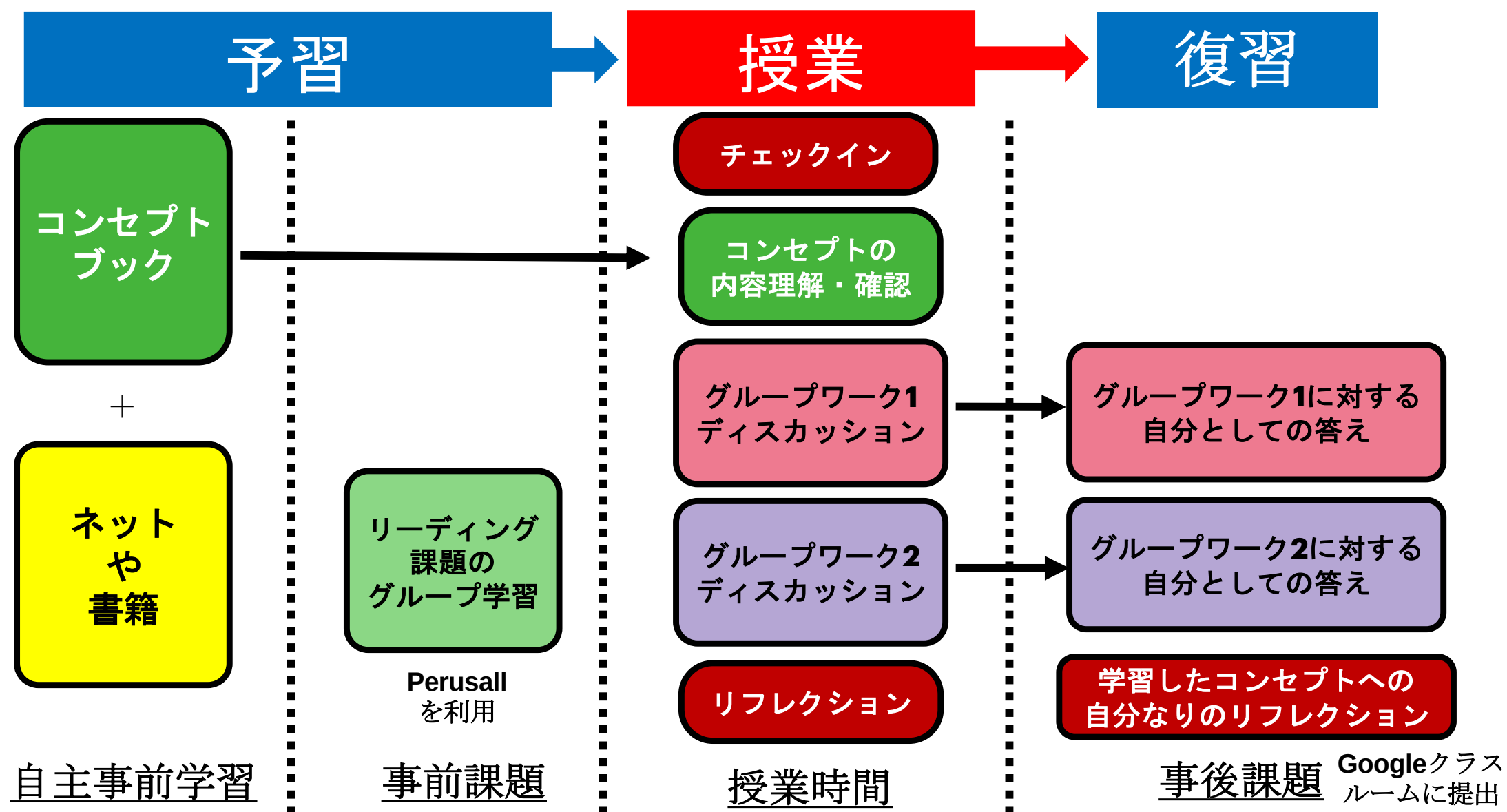
「基礎概念」

グループディスカッション・テーマの例

- 芸術は社会を変えられるのか？
- すべての人に学びの機会をどう保障するか？
- 会社は誰のものか？
- 情報化時代に人々のプライバシーをどう守るのか？（情報は誰のものか？）
- 世界中の人が、同じ言語を話すことは好ましいことなのか？
- 「ヘイトスピーチ」は、表現の自由なのか？
- 上司の不正を見つけたらどうするべきか？
- 機械は思考することができるのか？ → これらを「コンセプト」を用いて考えていく



学習サイクル：以下を週2回



Perusall=リーディング課題に関する学習ソフト

- ・オンライン上で非同期の意見交換が可能
- ・ラインマークしてコメント、他者の意見に同意
- ・受講生ごとの活動が可視化

(実績) 2021年度後期「基礎概念2」(クラス1)

学生のコメント数 トータル1894個

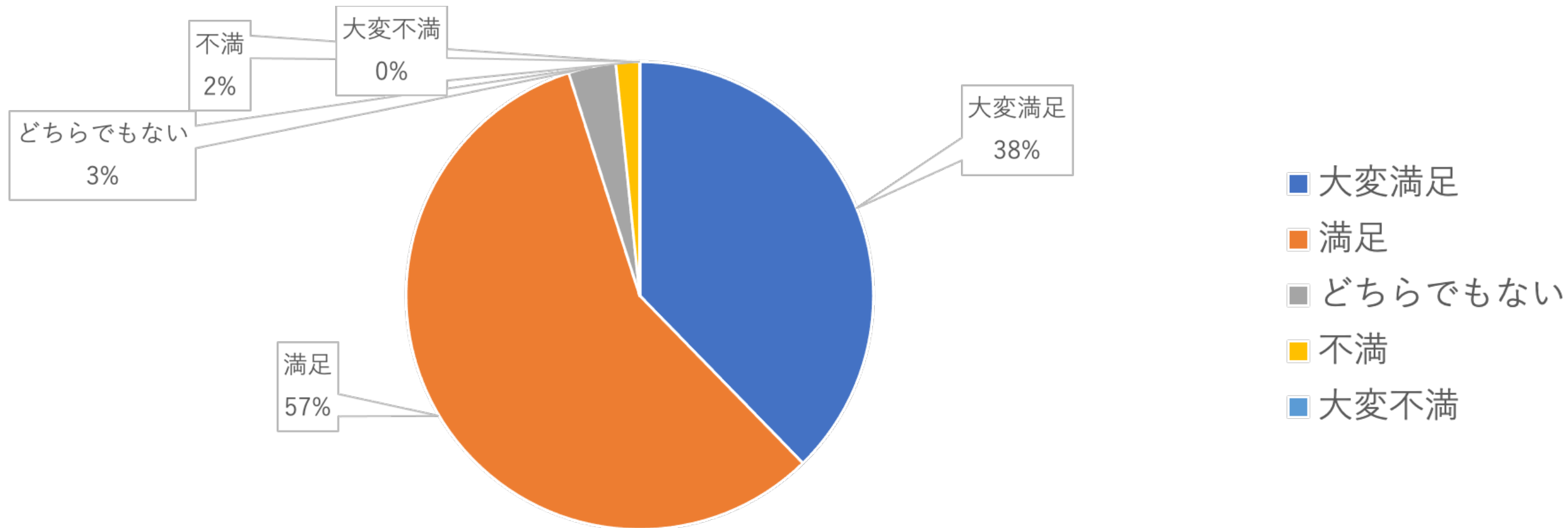
1回あたり 75.8個

一人当たり 3.2個

(最大の学生は一回あたり18.6個のコメント)



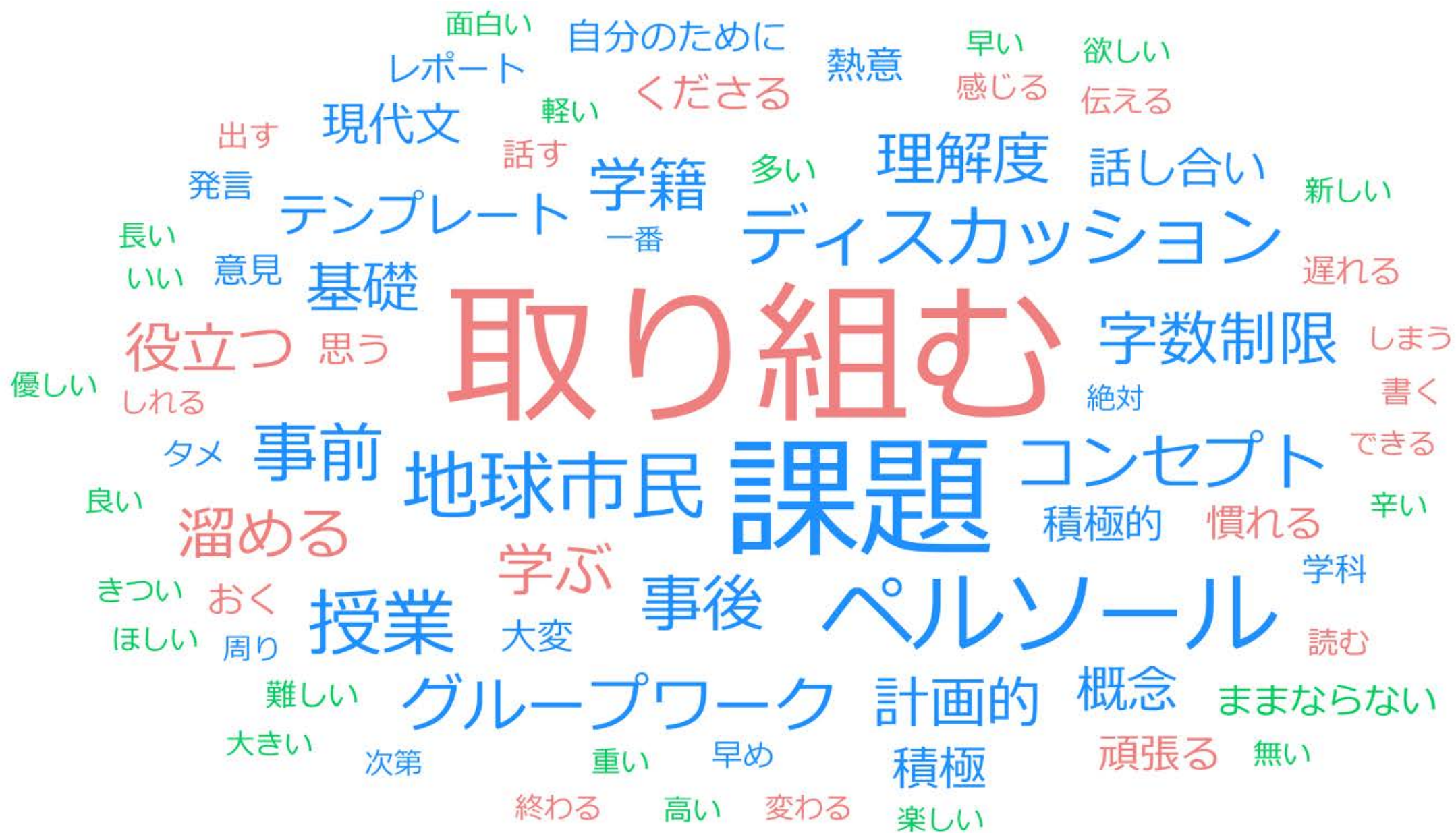
2021年度（初年度）アンケートより



大変満足プラス満足 = 95%、高い満足度



来年この授業を履修する学生へメッセージ



「来年この授業を履修する学生へ」

- あー何でこの学科選んだんだろって思うけど、
絶対役に立つと思うので頑張ってください😊
- みんな積極的に話してくれるからディスカッションが苦じゃない！
- コンセプトを日常的に思い出し、物事を色々な視野で見ることができるようになりました。
- こんなにもやっていて達成感が得られる授業はないと思います。課題は多いのですが、是非頑張ってください。
- 大変だけれど、一番ためになる授業です！



「来年この授業を履修する学生へ」

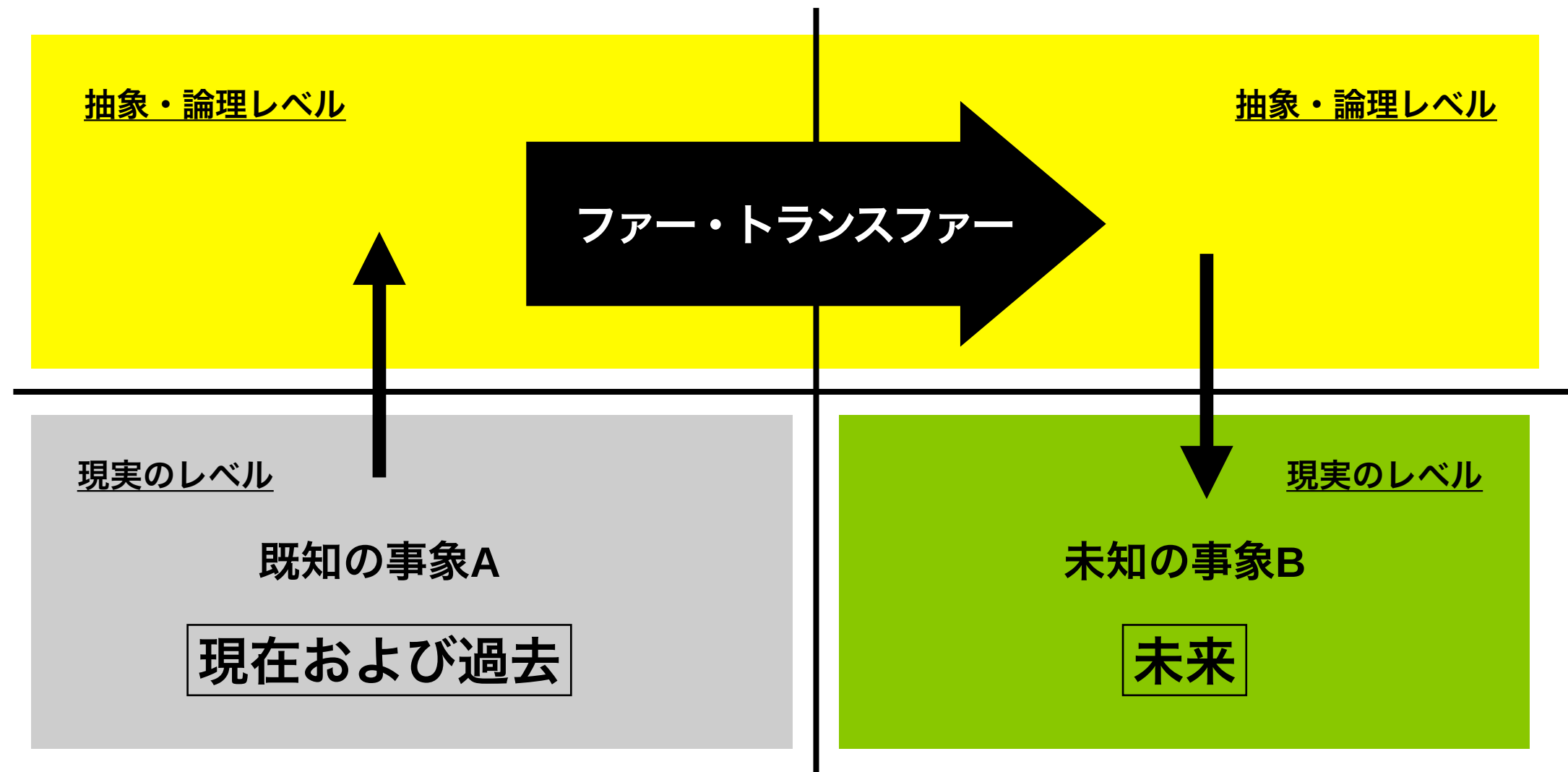
- リラックスして、楽しみながら学んでほしい。自分の意見を自由に発言して、仲間と比較し新しい発見をしてほしい。
- 薄っぺらく聞こえるかもしれないけども、本当に頭が良くなる授業だと思います。今までとは違う考え方ができるようになり、見える世界が一気に変わるので楽しんで受講してください！
- やる気次第で沢山のことを吸収できる授業だと思います。
- 毎回少人数でディスカッションをするので、話す力がついたり、話すことが苦ではなくなると思います。



「未知の事象」に対処する力の養い方

VUCAワールド＝予測不能な「未知の事象」に直面し続けることになる

地球市民学科の新しいカリキュラムが意識するのは、「ファー・トランスファー
(Far Transfer)＝学習の転移理論」という考え方。



出典：山本秀樹『世界のエリートが今一番入りたい大学ミネルバ』ダイヤモンド社、2018年を参考に一部改変。



VUCA時代に自分らしいキャリアを歩んでいくための学び

1. 「人生のWhy」に向き合い続ける

自分がこの人生の中で、自分の個性を活かしながら、どのように社会に価値を与え続けたいか？

【関連授業】新入生合宿、チュートリアル、SEL、地球市民セミナーなど

2. 「未知の状況」に対処するためのコンセプト（実践的な知）を身につける

異なる文脈・脈絡での「未知の状況」に対応できるモノの見方、思考の枠組み、理解の仕方

【関連授業】基礎概念1・2（グローバルシティズンのための101のコンセプト）

3. 単なる「情報」や「データ」を「知」や「智」に変換する力を身につける

膨大な情報やデータを、整理・分析しながら、意思決定に役立つ「知」へと変換する

【関連授業】データサイエンス入門、データサイエンス応用

4. 他者と協働するためのスキル・コミュニケーション力を高める

多様な個性を持つ人々との、協力・協働・共感のための力はこれからの時代の社会的スキル。

【関連授業】リーダーシップ・組織論、SEL、コーチング論、ユニバーサル・コミュニケーション論

English for Global Citizens、国際協力のための英語、国際協力のための外国語など

5. 生涯学び続けられる自分になる（そのためのコツと能力を身につける）

変化し続ける社会の中で、新たな知識、情報、考え方などを常にアップデートし続ける力

【関連授業】各種プロジェクト系科目（インプットしたらアウトプットをセットで行う）



地球市民学科の英語科目

1年 前期・後期

2年前期

2年夏

2年後期～

英語4技能の向上



必修科目名

“English for Global Citizen”

E-learning等の
効果的併用



英語集中講座

約4週間

4技能
トレーニング
の仕上げ

終了時に
TOEIC等
外部検定試験
の受験
(自己レベルの
把握と確認)

コンテンツ中心
「英語で」学ぶ
科目群

Global Citizen and Politics
Global Citizen and Society
Global Citizen and Development
Global Citizen and Peace
Global Citizen and Culture
Global Citizen and Environment
Global Citizen and Business
Global Citizen and Technology
Global Citizen and Justice
etc.

設定しているゴール
CEFRのB2とC1の間
＝海外大学の学部はほぼ全て、
また大学院レベルでも出願可能



国際協力のための英語（2年次夏季必修科目）



- JICA青年海外協力隊の語学トレーニング方法を応用した「特別プログラム」
- 超少人数クラス（5～8名程度）毎日50分 × 5クラス
- 最初の3週間は、大学でトレーニング。最後の1週間はJICA訓練所にて「国際協力×英語」の特別プログラム：国際協力分野で活躍している学科卒業生 JOCA（海外協力隊OBOG）の方のレクチャー



国際協力のための外国語（選択科目）

「言語（非英語）」×「国際協力」の特別プログラム

国際協力分野で活躍している地球市民学科卒業生、JOCA（海外協力隊OBOG）の方のお話

＜提供される言語例＞

マレー語、ベトナム語、フランス語、アラビア語、タイ語、スワヒリ語、クメール語、インドネシア語、中国語、テトウン語など



アラビア語の授業風景



タイ語の授業風景



もう一步先へ、もう一步前へ

- ・この価値ある学びを、キャリアにどのようにつなげるか、その道すじを示したい
- ・大学四年間のための学びではなく、その後のキャリアにつながるライフテーマを見つけてほしい
- ・四年後、どうなっていたいか。二十年後、どんな社会に住んでいたい。そのために自分は何をしていきたいか
ー「チェンジメーカー」へ

